第43号
2017年6月発行
［発行元］
港区芝地区総合支所協働推進課
発行部数30,000部

芝地区 地域情報誌

『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、さまざまな行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。

乗って 行ってみたいな船の旅

実現！東京 竹芝11時発、約24時間の高速運航
～“3代目”・新おがさわら丸で～

写真提供・小笠原海運株式会社
船室は、特等室（スイート）・特１等室（デラックス）・1 等室（スタンダード）・特２等寝台（プレミアムベッド）・2 等寝台（エコノミーベッド）・2 等和室（エコノミー）からなります。また、パブリックスペースもとても充実しています

小笠原諸島が、平成23年(2011)6月、ユネスコ世界自然遺産に登録されたことは、まだ記憶に新しいです。貴重な動植物の宝庫、美しい海の楽園、小笠原諸島をぜひ訪れてみたいと思っている方は多いのではないでしょうか。

小笠原諸島の島々全域は東京都小笠原村に属しています。そしてこの小笠原に飛行場はありません。実は、港区海岸にある竹芝客船ターミナルから小笠原・父島までの約1000kmを結ぶ船が、唯一の交通手段なのです。

そこで今回は小笠原と共に歴史を歩み続けている貨客船であり、『大きく、速く、快適に！！』と、平成28年(2016)7月2日リニューアル就航した、3代目「新おがさわら丸」の魅力に迫ってみました。

小笠原海運株式会社営業部長の奥田勝巳さんにお話を伺いました。同社は昭和47年(1972)より小笠原航路の定期運航を開始してきました。歴代船として5船目(※)になる3代目「新おがさわら丸」は総トン数1万1035トン、全長150メートル、旅客定員894名(170名／個室定員)です。前船2代目おがさわら丸に比べて1.6倍の大きさになり、運航時間は今までの25.5時間から約1時間半短縮し、片道約24時間を実現しました。

そこで注目したいのが、より便利になった船の発着時間設定です。

「東京出発を従来の10時から11時にすることで、前泊の必要がなくなりました。一方、父島からの出発時間を15時30分にすることにより、小笠原諸島での滞在時間を長くすることができ、お客様の利便性が向上し、よりいっそう観光を満喫できるようになりました」と奥田さん。

キングサイズのベッドを備えた特等室

旅客定員を増やしつつ居住性をも高めた船室はプライベート空間が保たれ、また清潔感にもあふれており、船上ホテルという印象。

船内のいたるところに遊び心をくすぐるデザイン、海や動物のモチーフがちりばめられ、船旅のワクワク感が高まります。

展望ラウンジHaha-Jima、レストランChichi-Jimaでは、温かいお食事やお酒も自由に楽しめて、売店ショップドルフィンでは、限定品おみやげなども取り揃えられています。他にもキッズルーム、授乳室、喫煙室が用意されています。

展望ラウンジの Haha - jima

海の生き物が描かれたキッズルーム

船内はバリアフリー設計となっており、またエレベーターもあるので車椅子のお客様も安心してご利用できます。ペットは別設備のペットルームで預かってもらえ、お客さまへ島内での適切な管理もお願いしています。

「小笠原は離島のイメージにある過疎化の島ではありません。島民の方々は移住の方も多く、平均年齢も若くてとても元気な島です」と、奥田さん。

そして島名物でもある父島の「見送り文化」についても教えてくださいました。小笠原ではお客様への心からのおもてなしとして、おがさわら丸が父島を離れる時に、盛大なお見送りがあります。湾を出るまで何隻もの島民の方々の船が、おがさわら丸と並行して走り、別れを惜しむのです。その光景を見るため、船上デッキは黒山の人だかりになるほどだとか。またゆっくりと島民の方たちとのお見送りの時間を過ごされたいお客さまには、特等専用デッキ(貸し切り)が併設される特等室も選べるので、さまざまな船旅が楽しめます。

２等寝台は上下２段ベッド、中央は階段

これからも小笠原の魅力に寄り添ったシーンを提供し続けてくれる新おがさわら丸。移動のための船というイメージを一新。乗船時間そのものも楽しむことができる新おがさわら丸を皆さんもぜひ体験してみてください。

取材・文：桑原 庸嘉子　写真：桑原 哲眞

※1972年～1973年・椿丸、1973年～1979年・父島丸、1979年～1997年・初代おがさわら丸、1997年～2016年6月まで2代目おがさわら丸

Information
小笠原海運株式会社
TEL. 03-3451-5171
http://www.ogasawarakaiun.co.jp/

8ページでは掲載記事の所在地を地図上でご案内しています！

芝神明の古と今をたずねて

◆芝神明界わいの町人文化と漫画（MANGA）の源流◆

江戸後期の始まりの頃（1750 年前後）の絵と仮名で構成された草双紙には、「桃太郎」などの子ども用の赤本、また世話物、時代物などの滑稽、道化と機智、時事風刺、駄洒落などを満載した大人向けの戯作、黄表紙などがあった。戯作とは、その内容が「戯」の「はあはあと声を立てておどけ笑う意」で書かれた小説、脚本などのことをいう。黄表紙は豆腐小僧などのキャラクター、コマ割り、クローズアップ、「ちょろちょろ」などの繰り返し語などがあり、現在の漫画の源流といわれている。

芝神明前町人文化と黄表紙は、どんな関係があったのだろうか。

賑わいの芝神明町

「お江戸日本橋七つ（午前 4 時）立ち……高輪夜明けの提灯消す　こちゃえ　こちゃえ」と歌われた東海道は、日本橋を起点として五十三次目の京都に到る。元禄 3 年（1690）の絵図に新橋を渡ると道の左側に海岸の土手があり、右側に増上寺と神明の社があり、新橋、源介丁……宇田川丁、神明丁と町名が三田まで、宿場が京都まで書かれている。

『東海道分間絵図』より。
新橋、神明の文字が読める
（国立国会図書館デジタルコレクションより）

芝神明社は、昔、増上寺境内飯倉天神の社地にあり飯倉神明宮と呼ばれたが、神明町にあるので芝神明宮といわれ、鎌倉時代にさかのぼる。寛永 11 年（1634）、神殿が修造され、参詣人が集り、生姜市も賑わっている。享保 20 年（1735）、神明社境内で宮地芝居が興行され、文化２年（1805）には力士とめ組の喧嘩もあった。天保 2 年（1831）頃には、芝神明界隈でも歌舞伎役者、花鳥、武者絵、景勝図などの錦絵（色摺木版画）が彫り、摺られ、草双紙が創られ、金鉄舗、紙楮店、菓肆、履物（草履）などの店が軒を争い、居を占め繁盛していたのである。

加えて、天保 10 年（1839）、芝神明社役所の弓場、お茶店、屋台の決め事が残っていて、江戸滞在の武士、江戸っ子たちが集まり、愛宕、増上寺を含めた芝神明宮地域が江戸見物、お遊びの名所として、芝の町人文化を楽しんでいる。

この地では諸国への江戸土産品に浮世絵、草双紙、黄表紙が江戸の文芸として喜ばれた。その人気は十返舎一九（1765-1831）が当時の出版社のことを「的中地本問屋」という黄表紙を書いていることでもわかる。文政 7 年（1824）の「江戸買物独案内」にある芝神明門前、宇田川町、金杉町などの周辺地区のまちの繁栄は、店舗数約 60 店超に示され、草双紙の販売と出版に係わる書物問屋（京都からの出店も含む）や、地本問屋が 8 店、紙問屋と筆・硯屋約 10 店が入っている。さらに芝神明には御眼鏡所（唐物類・紅毛物品々）、硝子細工所（紅毛油絵師、蘭画斎）の店などがあった。

戯作者、浮世絵師と芝神明

芝神明神社と地縁のある産土町は、文政 10 年（1827）、北に兼房町、南に西應寺町、西に麻布網代町まで約 50 町に及んでいる。

寛政 12 年（1800）前後、芝神明町周辺の賑わいのせいか、多くの戯作者や浮世絵師ら（右下表参照）が暮らし、錦絵、黄表紙などを地本問屋、書物問屋と共に出版し、売り、江戸の町人文芸の発信地のひとつになっていた。

この地に暮らした著名人として司馬江漢（1747-1818）が挙げられる。戯作者の元祖、平賀源内（1728-1780）の影響を受け、日本初の西洋腐食銅版画を創り、浮世絵師、随筆家、洋風画家であった司馬は芝新銭座町に暮らしていた。号である「司馬」は地名の「芝」に因んだものである。また芝神明には役者絵で有名な浮世絵師、初代歌川豊國（1769-1825）が暮らしていた。

しかし芝神明周辺に住まう戯作者たちの多くは、十返舎一九のように武士でもなかったので、著作だけでは食べられず、多くが菓子屋などの商売で稼ぐか、または別に本業を持った町人であった。

芝神明町周辺の戯作者、浮世絵師たちの“創作力”の結集である草双紙、錦絵などは、江戸町人の文化、文芸の一角を担い、その作品は日本の諸国へ拡がっていった。

そして、草双紙、錦絵などに影響を受けた日本の漫画は、現在はMANGAとして世界に注目されるに至っている。

文：森 明

「蝶々の朝きげん」
腹筋逢夢石二編　山東京伝戯作
歌川豊國戯画
大阪府立中之島図書館

『役者舞台之姿絵　かうらいや』
（港区立港郷土資料館所蔵）

芝神明界わいで暮らした戯作者、浮世絵師たち

芝新銭座町	浮世絵師／司馬江漢（1747-1818）／洋風画、銅版画「三囲景図」
芝宇田川町	陶器商／桜川慈悲成（1762 - 1833）／「落噺常々草」など
	版木師／南仙笑楚人　号・楚満人（1749-1807 ？）／「現金青木通」
芝三島町	表具師／桜川杜芳（？－1788）／「繋升三舛繋」など
芝神明町／後芝田町	質屋、書肆／美圃垣笑顔 (1789-1846)／「自来也豪傑譚」
芝神明社	浮世絵師、木偶彫刻／歌川豊國（1769-1825）／「役者舞台之姿絵」
	／恋川吉町（？）／「画本賛歌録斎」(1798)
	／桜川女松朝（桜川慈悲成娘）／「船玉物語」など
	書肆／花笠文京（1784－1860）／「厳島雪官幣」など
	／月光亭笑寿（？）「小紫権八」など
芝神明前	浮世絵師／勝川春扇（1762-1830 ？）／「汐汲み (しおくみ)」
芝片門前町	浮世絵師／歌川豊広（1774-1830）／「御殿山花見図」
芝金杉町一丁目	質屋／河竹新七（？ -1893）／「天地人脚色正本」
芝金杉、後に大伝馬町	浮世絵師／北尾重政（1739-1820）／「摘み草図」
	東西庵南北（1767－1827）／「復讐源五郎鮒魚」など
芝西應寺	幇間／桜川甚考（？）／洒落本
芝伊皿子	芝御組坂与力／高井蘭山（1762－1838）「那智白糸」など
芝西久保町	能役者／芝全交（1750-1793）／「厄払西海原」など
芝増上寺、桜田久保町	菓子商／七珎万寶（1762－1832）／「美止女南話」など
芝、後に横浜	菓子屋／五辺舎半九（？ -1879）／「落噺仕立おろし」など
芝二葉町	屋根職人／北梅園（？ -1848）／狂歌
新橋、後に名古屋	花山亭笑馬（？ -1855）／「東海道中滑稽譚」

※浮世絵師として表記がない者は戯作者です。

参考文献

藤堂明保編 学研漢和大字典 学習研究社、恋川春町 妖怪仕内評判記、田中優子 黄表紙と漫画 日本の美学 30 巻所収、遠近道印作 / 菱河吉兵衛絵 東海道分間絵図、市古夏生・鈴木健一校訂 江戸名所図会 巻之一 ちくま学芸文庫、東京都江戸東京博物館都市歴史研究室編 芝地域を考える - 愛宕山・増上寺・芝神明 調査報告第 27 号、港区ゆかりの人物データベースサイト め組のけんか（https://www.lib.city.minato.tokyo.jp/yukari/j/ukiyoe-detail.cgi?id=24）、寺門静軒 江戸繁昌記 第 3 巻 愛宕、十返舎一九 日本道中（金の草鞋）－江戸見物－、西山松之助編 江戸町人の研究 第３巻 吉川弘文社、江戸買物独案内 中山芳山堂、国民図書（株）編 近代日本文学大系 第 25 巻、小林忠 浮世絵の歴史美術 出版社、港区立郷土資料館編 UKIYO-E、木村黙老 戯作者考補遺 国本出版社、内田魯庵 蠹魚 (きくいむし) 之自伝 春秋社

◆芝神明商店街、伝統と新しさと◆

高層ビルが建ち並ぶオフィス街の中に、下町の風情を残した商店街があります。大門駅 A5 出口を出てすぐ、大門の交差点に近く、日比谷通りと第一京浜と並行して南北に走る裏通りにある芝神明商店街です。昔からの住人であり、商店街会長でもある内田吉彦さんにお話を伺いました。

芝神明商店街は JR 浜松町駅の駅前と比べると庶民的な空気が漂い、独特の風情があります。通り入口の大きな門をくぐると、飲食店が多数あり、早い時間から夜遅くまで賑わいを見せています。また、和菓子屋の芝榮太楼、ふとん工房の青野屋、八百屋の深瀬商店などの昔から続く老舗もあり、新しさと古さが混ざった雰囲気があります。

芝神明商店街は芝大神宮のお膝元に位置しています。賑わいのある大門側から商店街を進むと参道と交差し、左手に芝大神宮が見えます。都心の活気あるオフィス街でありながらも、歴史と風情を感じるエリアでもあります。

ここは歌舞伎の演目「め組の喧嘩」の舞台となった場所です。「め組の喧嘩」は、文化 2 年（1805）に起きた町火消し「め組」の鳶職と江戸相撲の力士たちが起こした事件です。芝大神宮境内で開催中だった相撲の春場所を、め組の鳶職とその知人が無銭見物しようとしたのが発端と言われています。力士仲間が応援に駆け付け、これに対して火消し衆も応戦、さらには火の見櫓の半鐘まで鳴らして仲間に動員をかけるほどの騒動だったようです 。

左●芝神明商店街と交差する芝大神宮の参道（地図❶）
下●今年新しく整備する門（地図❷）

今回お話を伺った芝神明商店街会長で、
芝榮太楼（地図❸）店主の内田吉彦さん

『江戸自慢三十六興』より『芝明神せうが市』

このように芝神明エリアはもともと江戸っ子のまちであり、昔は祭りも大賑わいだったようです。「最近、どの地域でも祭りの運営に若者が不足しており、神輿を担ぐ者がいなくて困っているところが多いと耳にしますが、芝神明商店街でも会員の多くが高齢の方で、若者の積極的な参加が望まれるところです」と内田さんは語ります。今でも芝神明商店街ではみなと区民まつりに参加しており、そこで地域の人と交流しています。商店街を通して地域の世代間交流を促進すれば、街に多様な活気が生まれるはずです。

また最近は外国人観光客が多くなっているようです。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、これからより増加すると思われます。商店街としては今年、門を新しく整備する予定とのことです。

芝神明エリアではここ数十年で街の様子が変わり、住人も変わりました。そのような変化の激しい時代でも、昔から続く老舗があり、そこには人と人との繋がりがあります。それを途絶えることなく次の時代へと継承し、もっと多くの人が地域で繋がり、暮らしやすく魅力的な街になってほしいと思います。

文・写真：竹田 和行

老舗の八百屋である深瀬商店（地図❹）の女将さん

区役所のサービスや施設・催しの案内はみなとコールがお答えします！　TEL03-5472-3710　年中無休 午前7時～午後11時

芝の食文化

サンドイッチ

マヨネーズも自家製！
一番人気のハム卵トースト

特別注文のトースター。
この器具を作れる職人さんが今やいないので大事に扱っていらっしゃるそう

文明開化でパン屋を開いた和菓子職人

朝食から夜食までどんな時間帯にも食べられているサンドイッチは、作法もなく片手で食べられる手軽さが好まれて国民食になっています。しかもタンパク質や炭水化物、野菜などがひとつにまとまっているので栄養的にも良い食事なのです。

世界中で愛されているサンドイッチですが、国によって形や大きさ、味も作り方も違い、肉類、魚介類、野菜類、フルーツなどその国ならではの食材や、総菜を挟んで常食されています。

新橋六丁目の塩釜神社近くにあるサンドイッチ専門店「サンアントンベーカリー」は、125年前の明治 25 年（1892）に開業しました。当時は和菓子店「若林」として商っていましたが、創業者の大川甚はパンに大変興味を持ち、わざわざ横浜のパン屋へ習いに通いました。手先のとても器用な人だったので捏ねる、包むはお手のもの。すぐに修得してアンパンなどを作って出すと、たちまち好評となりました。

戦後すぐにサンドイッチを多く出すようになりますが、その当時から変わらぬ人気なのがハムタマゴトースト。特製のタレをハムに塗った深みのある味わいと、外はカリッ、中はふっくらしたパンの歯応えと具材のハーモニーは絶品。長く愛され続けているのがわかります。

大川博社長が 34 年前に 3 代目を継ぐと、店名を「サンアントンベーカリー」に変えます。本当はクロワッサン専門の店にしたかったので、クロワッサン発祥の地、オーストリアのザンクトアントン村から引用したのですが、手間がかかる上に材料費もかかるので、割に合わないと諦めざるをえませんでした。

現在は常時 30 種のサンドイッチと食パン、総菜パンを提供しています。パンは自家製の天然酵母を時間をかけて発酵させているので、もっちりとして芳醇な香りと自然な甘さが口いっぱいに漂います。

「食材は新鮮さにこだわり、トマトなども信頼のおける八百屋に特注しています。マヨネーズも自家製です。作り置きはしたくないので1日何回も作ってできたてをお出ししています」と、大川社長と奥様は日中二人三脚で店中を駆け回っています。

やがて４代目を継ぐ息子さんと、「若い人の感覚を取り入れて一緒に考えて時代に合ったものを作りたいし、焼きものの研究もしてもっと種類を増やしたい」と、大川社長の目は将来を見すえた意欲に満ち溢れています。

文：千葉 みな子　写真：米原 剛

125 年ののれんを守る
大川博社長

具材も全て手製のカレーパン、クリームパン、小倉パン

サンドイッチは常時 30 種類を用意

Information

サンアントンベーカリー
新橋 6-9-1
TEL 03-3431-4953

港区子育てひろば あっぴぃ新橋

Photo by ご近所ラボ新橋

子育て中のママさん、パパさん！お疲れさまです。だんだんと日差しも強くなってきましたが、天候に左右されず室内で赤ちゃんと一緒に遊べる場が芝地区にもあることをご存知ですか？

今回は、新橋六丁目の「きらきらプラザ新橋」の 3 階にある子育てひろばを取材してきました。ここは「港区子育てひろば あっぴぃ新橋」という 3 歳までの乳幼児と保護者のための子育て支援施設です。

子どもは「地域の宝」。赤ちゃんの居場所も、やっぱり大事ですよね。子育てをしているママやパパも子どもと一緒に、安心して外出できる場所があることは大切です。

そんなママさん、パパさんたちにぜひ一度、遊びにきていただきたいところがこの「あっぴぃ新橋」です。港区にお住まいの親子でしたらどなたでも無料で利用できるという安心の遊び場です。

今回は、「あっぴぃ新橋」の利用者であり、ご近所ラボ新橋にもよく通っておられるママさんたちにインタビューすることができました。

みなさまそれぞれのスタンスで使いこなしている様子。ぜひ一度、親子で、「あっぴぃ新橋」へ足を運んでみませんか？

なお写真は月１回当館１階「ご近所ラボ新橋」で親子を対象に開かれる「きらきら写真館」にお力添えを頂きました。

ママさんたちの声

- ●改めてここの使い方に気づくことができて良かったです
- ●１度、使ってみるとわかる便利さがあります
- ●子どもが小さいと遊べる場が少ないのですが、子どもと一緒に外出することによって、生活のメリハリができるし、気軽にママ友と知り合えて親子ともどもリフレッシュできる場所です
- ●何と言っても、おひるごはんやおやつを食べるスペースもありますし、ママ友の輪が広げやすいです
- ●子どもを囲んで、ママ友とお茶をしながらおしゃべりできて、気がまぎれます
- ●子育てひろばと一時預かりでは同じ場所でも違うおもちゃ、違うスタッフがいるのでいいですね
- ●知り合ったママさんと一緒に、ご近所ラボ新橋のきらきら写真館で記念撮影できるのも楽しいです
- ●このような場所がちょっとずつふえてほしいですね

※利用者、利用時間、利用方法など詳しくは下記の HP にて、ご確認ください。

取材・文：田岡 恵美　撮影：米原 剛

Information

●港区子育てひろば あっぴぃ新橋
新橋 6-4-2 きらきらプラザ新橋 2,3F
TEL 03-5425-7525
http://www.associe-international.co.jp/shinbashi

●ご近所ラボ新橋
http://lab.gokinjo-i.jp/

芝地区いきいきプラザ

とっておきの講座編

今回は他にはないプラザ神明の楽しい講座をご紹介します。

いずれも介護予防には最適。各講習会とも年に何回か打ち上げと称して有志で懇親会などを行い、仲間づくりをしています。気の合った仲間ととっておきの講習に、参加してみてはいかがでしょう。

取材・文・写真：米原 剛

仏原語で歌うシャンソン教室

毎月第１・３週火曜日 14:00 ～ 15:00

講師は地元、芝の女子学園から東京藝術大学声楽科大学院を卒業。留学経験が有り、毎年 1 ヵ月はパリで過ごすという日本を代表するフランス語のシャンソン歌手リリー・レイさんです。

講習は、まずフランス語の読み方。母音が 5 つの日本語とは桁違いの母音数を持つフランス語の発声から入ります。そして言葉の意味を、パリ仕込みの雰囲気でエスプリの効いた会話で説明し、皆さんを和ませてくれます。

歌は、語るべきフランス語の言葉を大切に、春、夏、秋、冬と各 3 ヵ月に 1 曲ずつ季節に合った歌を選び丁寧に仕上げます。最後には、先生の伴奏でキーを合わせ独唱。遠慮深い人は何人かで歌います。なぜか他の歌の教室と異なり、男性が半数を占めるこの教室。気の合う仲間たちで楽しく練習し、成果をカフェコンサートで発表しています。

英語のカラオケ教室

毎月第２・４週水曜日　10:00 ～ 11:30

いきいきプラザの職員が講師を担当。ボイストレーニングを 20 ～ 30 分間十分に行った後、正確な音程とリズムがとれるように、講師がピアノでメロディーを弾き、英語の発音と意味、楽譜記号も説明しながら課題曲を練習します。2 ヵ月（練習日 4 回）毎に新しい曲を歌います。誰でも楽しく英語の曲が歌えるようになります。受講後の新たなアウトプットの場を検討中！

太鼓でリズム教室

毎月第２・４週金曜日　14:00 ～ 15:00

西アフリカ・ガーナ共和国の Boy Brothers と一緒に現地の太鼓「パンロゴ」を叩きます。パンロゴから生まれたリズムは鼓動になり、繋がる、広がる、同じ感動が生まれます。新しい音楽と舞踊の世界へと誘うコンサートにも共演し、ステージを楽しんでいます。

Information

三田いきいきプラザ
芝4-1-17
TEL 03-3452-9421

神明いきいきプラザ（プラザ神明）
浜松町1-6-7
TEL 03-3436-2500

虎ノ門いきいきプラザ（とらトピア）
虎ノ門1-21-10
TEL 03-3539-2941

●写真・資料提供　指定管理者：百葉の会・東急コミュニティー共同事業体

区役所のサービスや施設・催しの案内はみなとコールがお答えします！　TEL03-5472-3710　年中無休 午前7時～午後11時

芝の老舗

創業明治26年の老舗鰻割烹「鰻割烹 大和田」

新橋の栄通りにある「鰻割烹 大和田 新橋店」は、創業明治 26 年（1893）、初代岡田伝左衛門が江戸の尾張町（現在の銀座四丁目）大和田より暖簾分けを許され、有楽町に開業。大正末期に 2 代目久之亟が継ぎ、戦前は都内に 12 店舗を展開。昭和 6 年（1931）に新橋店を開業し、戦後は本店が新橋に移ります。現在は本店の新橋店と姉妹店の銀座コリドー店の 2 店舗を展開しています。

印籠コレクション

戦時中から戦後にかけて「食料統制令」のため、営業が難しくなった 3 代目の常三郎は、戦時中、出入りの職人集団を組織し、飛行機の操縦訓練装置製造会社を設立。戦後、その価値がなくなるとアパート経営を始めます。ところが家賃の取り立てに行くと、生活に困っている住人や子どもに小遣いを与えて帰って来るような気質。その後趣味を生かして古美術商を始めます。現在も印籠コレクションは有名で、銀座コリドー店には美しい根付のついた印籠が飾られています。

100 年のお付き合い

4 代目幸二の跡を継いだ 5 代目の和嘉さんは、10 年ほど前に若くして他界。突然 6 代目女将を継ぐことになった和嘉さんの奥様、ともみさんは「おたくとは明治頃からのお付き合いですよ」と話す業者の方々に支えられてきたと振り返ります。多店舗展開をした 3 代目の頃、それぞれの店舗の調理人によって味が変わらないよう「大和田ブレンド」の「タレ」の開発を宝醤油に依頼。甘口のタレでふっくらと焼き上げた鰻が大和田の伝統の味です。

6 代目女将、岡田ともみさん

7 代目につなぐ老舗

若くして他界した 5 代目は「鰻尽くし」ではなく、懐石料理の中に「鰻」の料理を、と提案していました。ともみさんは「老舗の継承」を目指しています。そしてご子息の嘉一郎さんは現在 28 歳。経営を学び、7 代目として大和田を守っていくことでしょう。

女性の視点から「鰻の魅力」を伝える

ともみさんは「女性にお洒落に鰻を楽しんでほしい」と願い、コリドー街に店舗を開きました。特徴は女性が好きな「サラダ」をメニューに取り入れたこと。大変好評です。店内の装いはモダンで、日本酒のほかワインを豊富に取り揃えました。ひつまぶし、鰻紅白重、白焼重や鰻の天麩羅などの一品料理は、女性にはうれしい品揃えです。

ワインとの相性もばっちり

老舗女将は広報官

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、ここ数年、ヨーロッパはじめ、アジア各地からのお客が増えました。鰻のメニューも多言語対応が求められますが、お客さま自らメニューを翻訳・校正してくれるとか。「鰻屋を続けていく」と同時に「鰻重や蒲焼だけではない、様々な鰻料理に合うお酒を紹介し、多くの方々に鰻料理の魅力を知って欲しい」との 6 代目女将の言葉に、老舗継承の意欲を感じました。新橋の祭りでは「篠笛」を担当。この街とともに長年歩み続けてきた大和田は、しなやかな旋律を奏でる女将の心配りに支えられています。

取材：森 明、早川 由紀　文・写真：早川 由紀
写真協力：大和田

Information

鰻割烹 大和田
新橋 2-8-4 新橋 MS ビル 2 号館
TEL 03-3591-4128
http://www.unagi-oowada.com/

芝にある風景

御穂鹿嶋神社（みほかしま）

JR 田町駅近くにある御穂鹿嶋神社は、再建されてからまだ年数が浅い新しい建造物です。4 月には正面にある区立本芝公園の桜の木のもとでお花見ができます。そして新緑の季節が過ぎて 6 月にはこの神社の例大祭があり、本芝・海岸・芝浦の地域を神輿（こしこ）が渡御（とぎょ）します。

私も毎年お祭りに参加して神輿を担がせて頂いております。

ここに描かれている青い地球儀のようなものは「海のタマゴ」と呼ばれています。人は海より生まれ、いま都会に住む。時おり人は母なる海に帰りたいと思う。「海のタマゴ」はそんな人間のたえることなき海への憧憬の念を形に表したものだそうです。

神社の前は JR 線の線路が、裏側には国道 1 号線が通っているのですが、その道路に出るところに「勝・西郷の会見の地」の記念碑が建っています。記念碑には左記のことが紹介されています。

『この敷地は、明治維新前夜慶応 4 年 3 月 14 日幕府の陸軍総裁勝海舟が江戸 100 万市民を悲惨な火から守るため、西郷隆盛と会見し江戸無血開城を取り決めた「勝・西郷会談」の行われた薩摩藩屋敷跡の由緒ある場所です。

この蔵屋敷（現在地）の裏はすぐ海に面した砂浜で当時、薩摩藩国元より送られてくる米などは、ここで陸揚げされました。

現在は鉄道も敷かれ（明治 5 年）更に埋め立てられて海までは遠くなりましたが、この付近は最後まで残った江戸時代の海岸線です。また人情噺で有名な「芝浜革財布」はこの土地が舞台です。』

絵・文：大野 正晴

昭和 26 年（1951）生まれ。39 年間、新橋タカトク金物株式会社に勤務。
「新橋で生まれ育ちましたので、特に港区、芝地区には愛着を持っています。この地域には歴史的な名跡が多いうえに、新名所もあり、興味深いエリアです。これからも芝地区の“心に感じる”素敵な風景を見出して描いていきたいと思います」

町会・自治会トピックス

「防災意識を高めよう！」東京防災in汐留 ～汐留町会～

4 月 21 日 (金) に区立汐留西公園で「東京防災 in 汐留」が行われました。このイベントは汐留町会主催の防災訓練で、さまざまな災害を想定した訓練を行うことで、防災意識の高いまちをつくることを目的としています。起震車で地震を体験できるほか、警視庁テロ対応訓練や消防士による救出実習では、迫力ある光景に圧倒されました。

またほかにも、AED 講習や煙中避難体験などの体験をすることができました。

地域住民のみならず、地域企業の方が積極的に活動に参加することで、「自助・共助・公助」の意識を高める良い機会であると感じました。

起震車体験

震度 7 の地震を実際に体験。地震が起きた時の行動を学ぶことができます

警視庁テロ対応訓練

警視庁警備部機動隊によるテロリスト制圧訓練。爆弾犯を取り押さえる機動隊員の迫力に圧倒されました

消防士による救出実演

実際にはしごを使って、ビルの高層階に取り残された人々を救出。てきぱきと救助活動を行う消防士を見て、みなさん歓声を上げていました

写真・記事：芝地区総合支所協働推進課

区役所のサービスや施設・催しの案内はみなとコールがお答えします！　TEL03-5472-3710　年中無休 午前7時～午後11時

旧町名由来板
をご存知ですか？

大正 10 年（1921）発行の「東京市芝区図」(東京逓信局発行) を参照すると、芝地区には、当時 74 の町名がありました。その後、住居表示実施などによる町名変更があり、現在使われている町名になりました。その 74 の町名の由来を記した旧町名由来板を芝地区内 20 か所に設置しています。

今回は「本芝公園」（芝地区MAP19）に設置されている旧町名由来板から 4 つの町名を紹介します。

本芝

中古の時代は豊島郡柴村とよばれ、海辺には漁家が点々とした土地でした。柴村を芝村と書くようになった時期は定かではありませんが、天正 15 年（1587）の文書には芝村と記されています。

半農半漁の民がここを開拓し、やがて天正 18 年（1590）の家康入国後、次第に発達し、商屋もでき代官支配の町場となっていきました。寛文 2 年（1662）に町奉行支配となって名実ともに市街地となり、往時の芝村であるというので本芝と呼ばれるようになりました。

本芝材木町

昔は豊島郡柴村に属し、町の北側には昭和に入るまで入間川の入掘があり、江戸時代末期までは海から舟が通う河岸地となっていました。昔から材木商売の者が多く住んでおり、町内地先の河岸地などに材木を積んでおいたことから町名となったと伝えられています。江戸時代には材木商が軒を連ね、木挽小屋からは鋸の音が絶え間なく聞こえてくるほどに栄えたようです。

本芝下町

昔は豊島郡柴村に属し、町屋となった後も代官支配でしたが、寛文 2 年に町奉行支配となりました。下等の魚を商う魚商が多く住んでおり、下等の魚を俗に「下もの」というところから下町と称するようになったと伝えられています。

はじめは、下町を読み誤らないように本芝下タ町と書きましたが、明治 44 年（1911）に本芝下町と改められました。

本芝入横町

昔は豊島郡柴村に属していました。町屋が建てられた後も代官支配でしたが、寛文 2 年、町奉行支配となりました。本芝通りより右に入る横町であるということから入横町と名付けられたのが町名の由来です。馬喰が多く俗に馬町とも呼ばれました。街道に近く、その運輸に従う馬の供給業者がいたためかと思われます。

Information 今回紹介した旧町名由来板の設置場所　**本芝公園　芝 4-15-1**

この付近一帯はかつて海岸で、雑魚場と呼ばれていました。昭和 45 年に運河を埋め立ててつくられました。

お知らせ

客引きに絶対ついていかない！

～港区客引き行為等の防止に関する条例を守る店を利用しましょう～

４月１日に、「港区客引き行為等の防止に関する条例」が施行されました。道路や広場など公共の場所において客引き行為等を明確に禁止する条例です。

区では条例が守られるよう、「港区生活安全パトロール隊」が条例に基づく指導を行うなど、違反行為等の抑止に努めています。また、客引き行為等をなくすためには、皆さんが条例に違反する店を利用しないことが大切です。

客引きは、宴会の二次会会場が見つからず困っているときに「うちならすぐに個室を案内できますよ」などと巧みに誘ってきますが、客引きに紹介された店で案内と違う料金を請求される等のトラブルも報告されています。皆さん自身が危険な目に遭う可能性もあるため、「客引きに絶対ついていかない！」という合言葉をいつも心に留め、条例を守る店舗をご利用ください。

問い合わせ　防災課生活安全推進担当　TEL 03（3578）2271

買い物するなら地元の商店街で

Going shopping? Visit our local shopping streets.

●本誌の制作には以下の編集委員が参加しています

伊藤早苗／菊池弓可／桑原庸嘉子／柴崎賢一／柴崎郁子／田岡恵美／竹田和行／千葉みな子／中原たづ子／早川由紀／町田明夫／森明／森田友子／米原剛（五十音順 敬称略）

●今後の発行スケジュールは次の通りです。

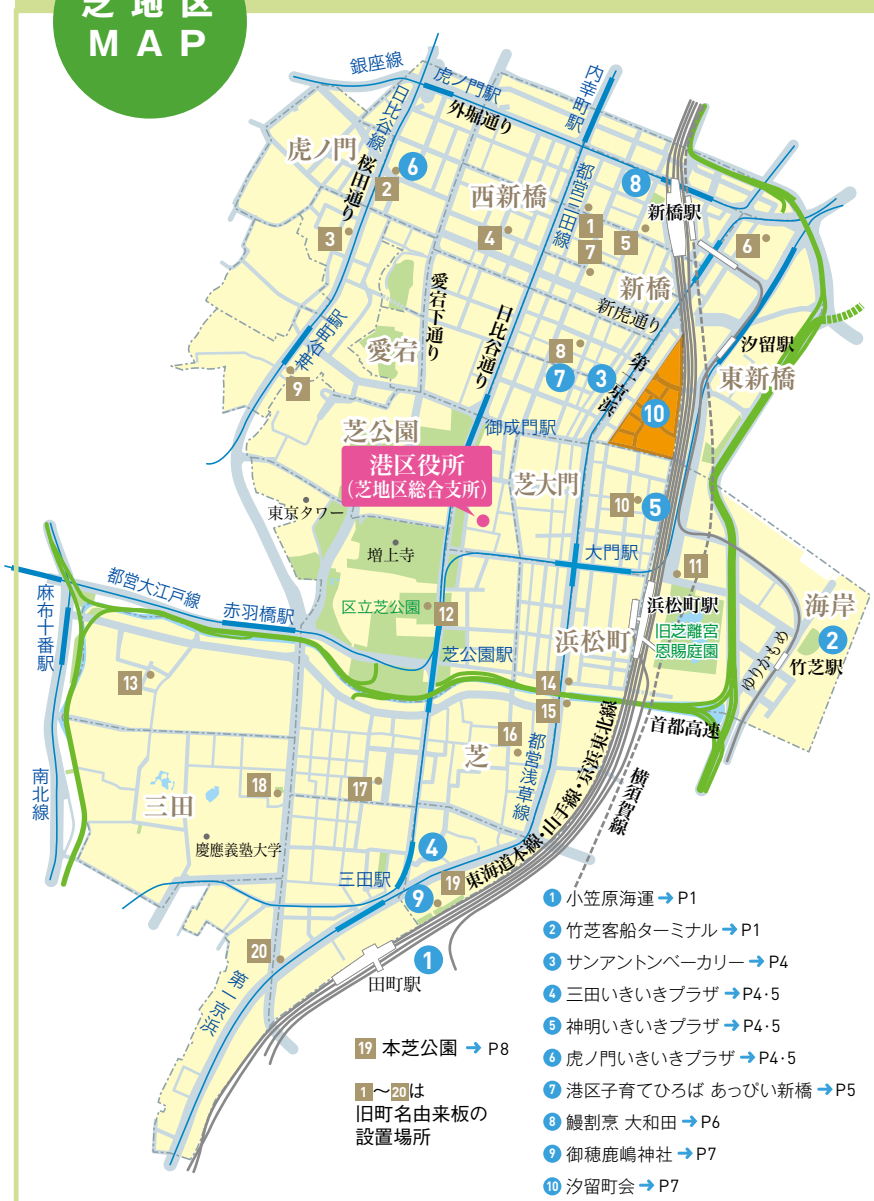
H29.9（第44号）、H29.12（第45号）、H30.3（第46号）、H30.6（第47号）※各号発行月の20日頃

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設などで配付しています。

芝地区 MAP

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。ウォーキングマップとしてご活用ください。



港区芝地区総合支所協働推進課　〒105-8511 港区芝公園1丁目5番25号（港区役所1階）
TEL03-3578-3192　FAX03-3578-3180
ホームページ http://www.city.minato.tokyo.jp/